

第2回北見市地域公共交通活性化協議会 議事録（概要）

◎日 時	平成31年4月26日（月）午後3時～4時15分
◎場 所	北見市立中央図書館 多目的視聴覚室
◎出席者	船戸会長、高橋副会長、南保委員、佐藤委員、森川委員、堀井委員、 小谷内委員（代理）、飯沼委員、菅田委員、小林委員、桑原委員、佐々木委員 高木委員、岩元委員、久保田委員、尾崎委員（代理）、藤原委員、 高田委員、山田委員、因委員、田辺委員、須藤委員、飯塚委員（代理） （計23名） 欠席者：伊藤委員 松原委員 （計2名）
◎事務局	山田次長、三浦課長、田村係長、坂本係長、流水主事、中主事補
◎傍聴者	3名

1 開 会

2 異動による委員変更

企画財政部長 船戸委員（会長）	常呂総合支所長 須藤委員
北海道開発局網走開発建設部 小谷内委員	北海道高等学校長協会オホーツク支部 佐々木委員

3 会長挨拶

4 議 事

会長 3（1）北見市公共交通網形成計画策定全体スケジュール（案）について事務局より説明。

事務局 計画策定全体スケジュール（案）について説明。《資料1》
計画策定の大きな流れとして、表の1、2段目の調査事業を進め、市民、おもに公共交通の利用者に対して、乗降調査・ニーズ調査を実施する予定です。交通は、移動する手段であると考えますので、公共交通を用いた移動の目的地や起点について現況を把握することを目的としております。調査手法につきましては、次の議題になりますが企画提案型方式で選定をする予定の委託事業者や交通事業者と相談しながら進めることとなります。そして、北見市は積雪寒冷の地域特性があり、夏は自転車、冬はバスといった交通手段の変更が見受けられます。このことから、夏と冬に調査を行い、交通手段の現状を把握し、今後の公共交通の利用促進につなげていきたいと考えています。また、各種調査と並行して、関係する計画等の各種調査について既存データの整理からも現況把握に努めます。調査事業について、冬場の2月頃までかかることが予想されるため、今年度は調査及び調査結果のとりまとめを行い、調査結果を踏まえながら、来年度、計画の具体的な中身について協議を進めていきたいと考えています。北見市地域公共交通活性化協議会につきましては、2、3カ月に1回程度開催を予定し、データや課題についてご報告し、協議を進めていただきたいと考えております。また、5段目の専門部会（自治区部会）について、後ほど議事4で相談させていただきますが、地域ごとに特性がある自治区にて、交通の現況や今後の取り組み方針について取りまとめを進めると想定しています。調査や現況の把握に1年程度かかることから、調査結果等をふまえ、協議を進め、来年度10月頃に計画の策定を想定しております。

会長 3（2）北見市公共交通網形成計画策定支援業務委託について事務局より説明。

事務局 計画策定の調査等について説明。《資料2》

会長 ご意見ご発言があればお受けします。

委員（公安） 今後、高齢者の方が中心になっていくと思う。 交通の目的は買物・病院などですが、バスの乗り方自体を知っているかの調査もしていただければと思います。 計画は高齢者がいかに利便性良く気軽に出かけられるような、高齢者を中心とした体制をお願いしたい。

会長 3（3）公共交通に関する情報提供について事務局より説明。

事務局 網形成計画において検討に含める交通手段の範囲について説明。《資料3-1》
将来において、現状で提供されている地域交通サービスを有効に活用し、課題に対応できないか。限られた財源の中で持続可能なサービスとなるよう気をつけ、地域の実情に合った移動手段について検討を進めたい。

北海道における大型二種免許保有者の状況及び北見市内のバス運転手の年齢構成について説明。《資料3-2》

大型二種免許の保有者数については、減少傾向（グラフ）、免許の保有者については60台以上が18%の割合で、50台以上が66%の比率。バス運転手は、20代が5%、30代が6%、40代が23%、50代が48%、60代が18%の割合となっており、50代以上が66%の比率（グラフ）となっている状況です。

北見市内におけるタクシー台数・乗車人員を説明。《資料3-3》

法人タクシーと個人タクシーの台数と合計した乗車人員についてですが、ほぼ横ばいの状況が見受けられます。年間乗車人員数としては、グラフからは、タクシーが200万人弱となっています。第1回目の協議会で示したバスの年間乗車人員は年間250万人程度となっておりました。

会長 公共交通事業者から、雇用状況をご説明願います。

委員（交通事業者バス1）

当社の雇用状況は50代60代合わせて66%、道内平均では50.2%、当地域については年齢が高い。若年層は20代30代北見は11%しかありません、道内では15.3%。どちらを見ても状況は当地域が厳しく平均年齢が高い。当社の雇用状況、社員の定年は65歳で再雇用期間として三年間あり、68歳で雇用満了。今後運転手満了者がおり、間接的に影響する管理部門でもいる。再雇用満了年齢68歳を延長して確保することも調整中です。募集方法としては、自社ホームページ・ハローワーク・新聞・ハローワークでの求人説明会・広域他社との合同企業説明会・求人情報誌など。運転手不足が生じる場合の対応は、休日出勤や時間外勤務でまかなう手段、貸切バスの受注や都市間バス増発便の抑制等により対処し、路線バス維持を優先し不足が常態化の場合、近い将来には、市内・郊外線の路線再編や廃止または効率的な運行時刻の設定・減便などでの対応が避けられなくなると考えています。

会長 つづいて、よろしいでしょうか

委員（交通事業者バス2）：

当社の雇用状況。定年が60歳、本人が継続雇用を希望した場合延長。実際8割が継続雇用を希望され年金支給まで延長。65歳までを正社員65歳から再雇用とし70歳まで勤務、なお65歳以上はスクールバスの業務としている。運転者の募集はハローワークやホームページかつ求人情報誌で募集を通年かけている。平成28年には高校生の新

卒採用を実施し、今年が3年目、先日大型2種免許を取得し、運転手として育てていく。H31年新卒1名を新人から教習して確保していく養成運転手制度で、免許費用を一旦肩代わり、大型2種免許を取得していただき、3年継続勤務し、その場合免許取得費用は免除。実績平成27年に3名・28年に3名・29年3名・30年度3名合計12名養成取得制度を利用、なお運転手としての適性がないと3年を待たずに4名退職。リスクもあるが若い世代の人を確保する上で養成制度継続。大型2種免許の費用は大型1種を持っている方で250,000円・普通免許の方ですと450,000円と言うことで個人で取るには難しい時代になった。今のうちから養成運転手制度をして人員の確保。路線バスの影響について、都市間バスの増発を制限したり貸切車両の本数を制限して影響ない様にしております。

会長 つづいて、よろしいでしょうか

委員（交通事業者ハイヤー1）

乗務員の70歳代が16%、60歳代62%と乗務員の年齢が高齢年齢の方が8割位を占めている。64歳定年で雇用を継続、募集関係については求人誌やハローワークだが、人が集まらず10年の間で半分位に乗務員が減っている。2種免許の養成で札幌に（10日間）送りだしてるが、なかなか乗務員が集まらない。

会長 ありがとうございます。どこの業界も人材不足で難しい、特に公共交通を担っていたいるそれぞれの業種も、厳しい状況になっている。副会長よろしいでしょうか。

副会長

今までの話を含め、私も含めて市民の方々は、（交通事業者の実情）どうか知らないんですよ、何とかなるんじゃないかなと思われていますけども、実はこれからはバス路線が廃止されていく最大の理由は乗客がないことでなく、バスを回すための運転手がないと言う事、これは最近テレビでも報道されていて問題視されてきているのかなと思います。やはり、その問題の所在が理解していないので自分たちが乗らないか、バスがどんどん無くなると一方的な側面だけを見ていると問題の本質を見間違えるのかなと言うふうに思っております。ですから何とかなるんじゃなくて今ある危機を市民の皆さんも共有していただきたいと言うことです。

先程の調査の件お話があるんですが、ひとつは現在利用している人たちだけに聞くと言う話でしたが、やはりこれは池袋の交通事故では無いですが、まだまだ車を乗らなきゃならない人もいて、その人たちがバスに乗らない限り問題が解決しないと思いますので、いつか利用するだろう人たちを含めて、積極的に調査していただかないと、今の問題・5年・10年先のことも含めて考えていかなければならなりませんので、この辺の利用対象者、将来利用するであろう人たちを含めて調査する必要があると思いました。もう一つは網形成計画の重要なところは公共交通の計画をするのではなくて、まさに交通ってというのは派生需要つまり目的がないと、バスに乗ったりする必要がなく、派生需要は目的を作らなければならない、それはまちづくりと一体となってやらなければ、いくら利便性を上げたとしても、行くところがなければいけないわけで、まさに本日出席の半分は交通事業者の方ですがこちらの方には教育・商業・福祉含めてそういう方（行政）がいらっしゃるので、ぜひまちづくりと一体となってやると言うのが1番の今回の計画調査ポイントと思っています。いずれにせよ、先日公共交通ってなんですかと言う質問がありましたが、運輸局の方は別として答えられないと思います。これは大学でも公共交通の定義を正確に述べた学生もいませんし、学者としても公共交通はこれですと言った事は1度もないです。補助金が入っているから公共交通って言うわけでもありませんし、じゃあ不特定多数が利用するから公共交通かっていうとそういうわけでもないです。スクールバスは特定利用ですよ、要するに少なれば公共交通でないのか、特定なのかと言う問題ではなくて、これは今この状況に至ってはここで新たに公共交通の定義を決めてやってもいい位の話で、公共交通って言うのを固定概念で考えていくと計画としては良い計画ができなくて、やはり将来に向けてMaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）とかいろいろな流れもありますので、少し将来を見据えた形で公共交通をフレキシブルに考えながら計画を立てていくことが必要となってくるのかなと思います。

どちらにしても、まずは現状調査を始めると言う事ですので、その現状をしっかりと調査し、計画を作った段階でオープンするのではなくて、その都度、市民の皆様にも説明をしながら確実に良い計画作りを進めていただきたいと思います。

会長 公共交通利用者から、ご意見を願います。

委員（利用者団体1）

老人クラブ事務局です。 バスもタクシーの方もおっしゃった通り、運転する人がいない。要するに車が走れない。 逆に高齢化率が高まっていて老人クラブの事業をやるにしても、総合福祉会館に来るときに非常に大変な思いをして乗り継いできている。 これから交通弱者と言われる高齢者の人たちはどういうふうに輸送してくだんと言うことがあるわけですけども、今の話を聞きますと利用者がいないから利益が出ないと言う以前の話だと言うふうにお聞きしました。 そしたら、正にこのことを民間の事業者がやっているということだとしたら、当然利益と言うことが追求されるわけで、これからの施策調査をした結果、どんな施策を展開するかが浮上してくると思うんですけども、やはり行政自体がこの問題をどう捉えて施策に反映させしていこうとするのか。 またどこまでできるのか、できないのか、そのビジョンをある程度変更して固めていかなければ、この段階では将来暗い。 公共交通自体が足の確保ができないかもしれない。 免許返納の問題も加速して来ているし、そういう部分でこれから、今乗っている人ではなくて、将来乗る人が間近に、相当いるわけですよ、そういう面ではデマンドも含めてですけども、バスが近いとか遠いとかという以前の問題で、公共交通と言うバス・タクシーを、これらどうフォローアップしていくのか、いけないのか、こころをきちっとある程度ビジョンを示さないと、ぼかしたまま行っただけはいいが、ある程度の方向を出したけども、現実動く車がないわけです。 そのことは難しい問題ですけども、このあたりを問題共有していかなければならないし、後ろ盾となる行政がどのように手当てしていくのか骨格軸を据えた中でやっていかなかったら、これからの論議する政策が委員会の手落ちになってしまうと、私は老人クラブの立場でいろいろな人たちの声を聞いているときに、それ以前の問題をどうするのかということをお重く受けとめましたので、業者側からの現実を聞いてひとこと発言させていただきました。 よろしくお願ひします

委員（利用者団体2）

先日ですね、私くし相内の方に住んでいまして、西25号線に新しいバス停ができました。 運転されている皆さんに、あそこにバス停ができたと言う話をしたら、ああそうなんだ・・と言う感じで、誰乗るのかしらと言う話をしていた。 実際はその近くに住んでいる方が、どうしてもそこにつけてくださいと言って頼んだ場所なんですけども。 先程の高橋先生の話では無いですが、実際自家用車で通っている方々についてはバス停ができるって言うことも対岸の火事みたいなもので、あと何年か立つと、バスに乗らなければならないようなことになるものですから、これからは市の方で調査をするようでありましたら、今利用している方ではなくて先程の方もおっしゃったとおり、いろいろな方を想定していろいろな方に捉えたほうがよろしいんじゃないかなと言うふうに思います。 それともう一つバスの問題と関係ないと思うんですが、免許返納の話がありますね、昨日一昨日テレビでやってたんですけども、どちらかと言う話ではありませんが免許返納された方は、認知症が進むのが早いとテレビで学者さんが統計をとって言ってました。 私実際近くで免許返納された方を見たらちょっと元気がなくなった感じがするんです。 まあそうするとバスしか乗るしかありませんからまあ、そういう問題もあるものですから、免許証返納したほうがいいのか良い事と簡単に言えるものなのかなと思っても、87歳のあのような交通事故もありますし、すごく難しい問題だなと考えております。 いずれにしても行政でいろいろな調査をされて、我々がバスに乗らないから安定しないだの荒廃しただの言うてますが、そうじゃないという事が、あらためて感じる事が多すぎて、問題が難しく、我々はどうしたらいいのか、利用者はどうすればいいのか、なかなかわからないようであります。

委員（観光協会）

これは全産業にわたって大問題なんだろうと言うふうに思っております。 出生率が1.27と言う事は1世代進むと人口が4割減るわけでありまして、これが今後さらに激しく進むと言うことであります。 観光産業もそうありますが、人口が減ることをどう乗り切るかと言うことで、例えば一次産業はAI化を進めようと言うお話ですけども、それから外国人の力を借りようと言うようなお話が、今後いろいろなリスクはあるかと思っております。 公共交通については、どういった知恵があるのかと言うことが、私も皆目見当つかない、ただ高齢者のリスクっていうのは緊急に対処しないと、たびたび事故があり、今後も続くと言う事が絶対にあってはならないと言うようにしなければいけないと思いますので、ここはみんなで取り組まなければいけないことだと思うんですが、全体としてはこの問題にどう通り取り

組むかと言う事を、考える元になるようなアンケートになってほしいと思います。

委員（社会福祉協議会）

先程からお話がありましてバス会社さんにしてもタクシーのほうにしても、人材確保と言う形では大変苦慮されていると思いますけどもどこにあっても、どこにあっても人材確保っていうのはですねこれ交通の関係だけではなくてなかなか大変なんですよ。だから人材確保がいかなる方法を持っているっていう事では、それぞれ苦慮されていると言う状況かと思えます。たまたまですね私のほうの高齢者の施設については、なかなか二種免許を持って、運転手を確保すると言うことが大変な状況であり、しかしながら、どうするんだと言うことで、大型バスからマイクロバスにどんどん変えています。そして普通免許でも普通免許でも回る形で変えています。そのように移動手段を変えながら構築しながらやっております。いろんなことで人材確保については、知恵を出していかなければならないと思いますし、また実際あったことなんです、だんだんと北見市も昔と違って市街化がどんどん進んでまいりまして、学園通りと中央通りの交差点で、聴覚障害者が実際に横断歩道に立っていたら、足をひかれてしまったんですね。具体的にお話を聞いて、市と警察で話してみますと、あの信号機の音がですね、昔設置されたころは、そんなに大きな音はいらなかったんですが、時代が進みその音も高くしていかないとならないと言うことを聞き、すぐ公安に、お話し申し上げたところ昔の物だったんだと言うことで、大事故になる前に解決したことがありますので、やはりハードソフト含め今後いろいろな形で、地域の特性だとか路線の把握とか実態調査をやっていくと言う事で、今後の課題やその中で議論しながら深めていきたい。

委員（利用者団体3）

当市に着任してから3週間と言うことで詳しくはないんですが、教育の方でも子供の数が年々減少していると言う問題、それから教員の数が減ってきていると言うこともやはり今お伺いした事情と似たようなことがあると思っております。例えば、道の教職員で受かっていながら辞退する者の数が100どころではなく200を超えている。それから各学校でこれまでは校長がいて教頭がいて事務長がいて職員職がいてトロイカ体制になっていたものが、その3つの職が満度に当たる事はこの先期待できないでないかと言うふうに見通しが示されています。そういった事情があって今後どういうふうに取り組むかと言うことが考えていかなければならないことを思っております。ゆえに業界は違うわけですけども何とか打破するような知恵を出し合う必要があるのかと言うふうに感じております。以上です

会長 それぞれのお立場で発言いただきました。何かご意見ご質問ありますでしょうか。

委員（公安）

免許返納については皆様が思っているより大変な状況になっており、返してほしいと思っておりますが、生活が大変であるという現実があります。あと認知症の関係で非常に大変なことになっております。バスに乗ってる方も大切なんです、今、車に乗っている方をどうやってバスに転換するかが重要になってくるかと思えます。資料をみてみますと、あと10年後について3割10,000人高齢者人口が増えるはずで、20年くらいするとピークが来ますのでこの方をいかに車からバスに乗せるかと言う政策を早急に考えていくことが大切なのかと思えます。そういうものができたらね、警察のほうも交通機関がしっかりしているのだからと、免許返納されたらと自信を持って説明ができるような交通網作りをしていただければと思っております。バス停の話も出ておりましたが、バス停については有効活用できると思うんですよね。例えば留辺蘂だったら北見に行くといった時に、パーク&トレインと言うような、近くのバス停まで行ってそこからバスに乗り北見の赤十字病院に、そういう方法もある、そういう方法についても、今後いろんな立場で知恵を絞り出していきたいと思えます。高齢者の免許返納については非常に、危機的状況に陥ってますので、できるかぎりやっていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

会長 免許返納のはなしでしたが、この地域は車抜きではハードルが高い、この辺りも含め検討すべきだと思います。他にありませんでしょうか。
.....「なし」との発言.....

会長 3(4) 専門部会(自治区部会)の設置について事務局より説明。

事務局: 「第2期北見市総合計画 ダイジェスト版」、「多核連携型のコンパクトなまちづくり」、自治区を核、拠点として、公共交通を含む交通ネットワークにより連携したまちづくりを想定。《資料4説明》

会長 何かありますでしょうか
.....「なし」との発言.....

5 その他

会長 何かご意見ご質問ありますでしょうか
.....「なし」との発言.....

事務局: 次回は7月頃を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

6 閉会

会長 本日予定の議題につきまして、すべて終了いたしました。 本日はご苦労様でした。